

「トピックス」 令和7（2025）年度

第9回 「歓喜と涙の劇的勝利

～スポーツ・文化の地域発信～」

先日、旧安芸太田町立戸河内中学校グラウンドで開催された「第11回安芸太田もみじ杯」にお招きいただきました。今回のトピックスはその一場面から始めます。

地元の「安芸太田ソフトボールクラブ」は初戦から強豪と対戦しました。前半は押される展開が続きましたが、何とか3点差で終盤を迎えます。時間制のため、ここで追いつけなければゲームセットという場面で、選手たちは粘りを見せ同点に追いつき、いよいよ最終回に入りました。表の攻撃は相手チーム。クリーンアップの放ったヒット性の当たりを見事なファインプレーでしのぎました。そしてその裏、ここで点を取れば勝利、無得点なら引き分けという緊迫した場面で、キャプテンが左中間へ三塁打を放ち、一打サヨナラのチャンスを迎えます。相手投手は左腕の好投手で、初回から渾身の投球を続けていました。遂にその時が来ます。投手の放った低めの速球をバッターが迷うことなく振り切り、センターへ運びます。三塁からランナーが生還し、感動のサヨナラタイムリーヒットとなりました。ベンチの選手はもちろん、観覧席からも大歓声が湧き上がり、私は興奮と感動で体が震え、涙がこぼれました。歓喜と涙の劇的勝利は、選手の日々の努力と監督・コーチ・家族をはじめ関係者の支援の賜物です。

この試合も中盤までは完全に相手のペースで、満足のいかないプレーもいくつかありました。しかし、そのような場面でも監督やコーチは、見えているプレーをただ叱咤するのではなく、選手の心に寄り添う支援を丁寧に続けていました。上手いかなかったことは本人が一番よく分かっています。それを理解し、丁寧に指導に当たる監督・コーチの姿に深く感銘を受けました。この姿は日常のものであり、そこで培われた信頼関係が歓喜と涙の劇的勝利を生んだと私は確信しています。

本大会は「安芸太田ソフトボールクラブ」が主催する手作りの招待試合です。広島県で人口の最も少ない町のクラブが、近隣各地から20チーム、総勢約600

人を迎えて大会を運営することは容易ではありません。グラウンドや施設の準備、大会役員による運営、更には昼食の炊き出しまで、すべて関係者の皆さんでやり遂げられました。保護者、保護者 OB、選手 OB、さらには地元企業の協力も得て、小さな町が大きな大会を今年も見事成功させました。

以前のトピックスでも触れましたが、現在「中学校部活動の地域展開」が全国で進められています。安芸太田町ではソフトボールの小学生スポーツ活動が以前から盛んであり、それが中学校部活動へと自然に繋がっていると私は強く感じています。本町に限らず、小学生の地域活動は小学生の地域活動、中学校部活動は中学校部活動と明確に区別して考える風潮がありました。ここでは軟式野球・ソフトボールを例に挙げましたが、同じことは他のスポーツや文化活動にも当てはまると考えます。今こそその垣根を取り払い、部活動の地域展開やスポーツの地域発信を進めていく時ではないでしょうか。

安芸太田町では、軟式野球・ソフトボール、バレーボールなど、地域の皆さんが子どもたちの活動を献身的に支えてくださっています。そのように子どもたちを慈しんでくださる皆さんとともに、これからの中学生のスポーツ・文化活動の在り方についてじっくり考え、丁寧に話し合い、子どもファーストの「中学校部活動の地域展開」を進めていければと願います。皆様のご理解とご支援をお願いします。